

住友大阪セメント株式会社

101 中期経営計画

(2009～2011年度)

2009年3月24日

はじめに

経済環境が急変するなかでの中期経営計画策定について

急変する経済環境

緊急対策

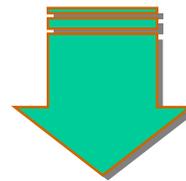
による対応

+

中期的方針(目指すべき方向性)

中期計画

による対応

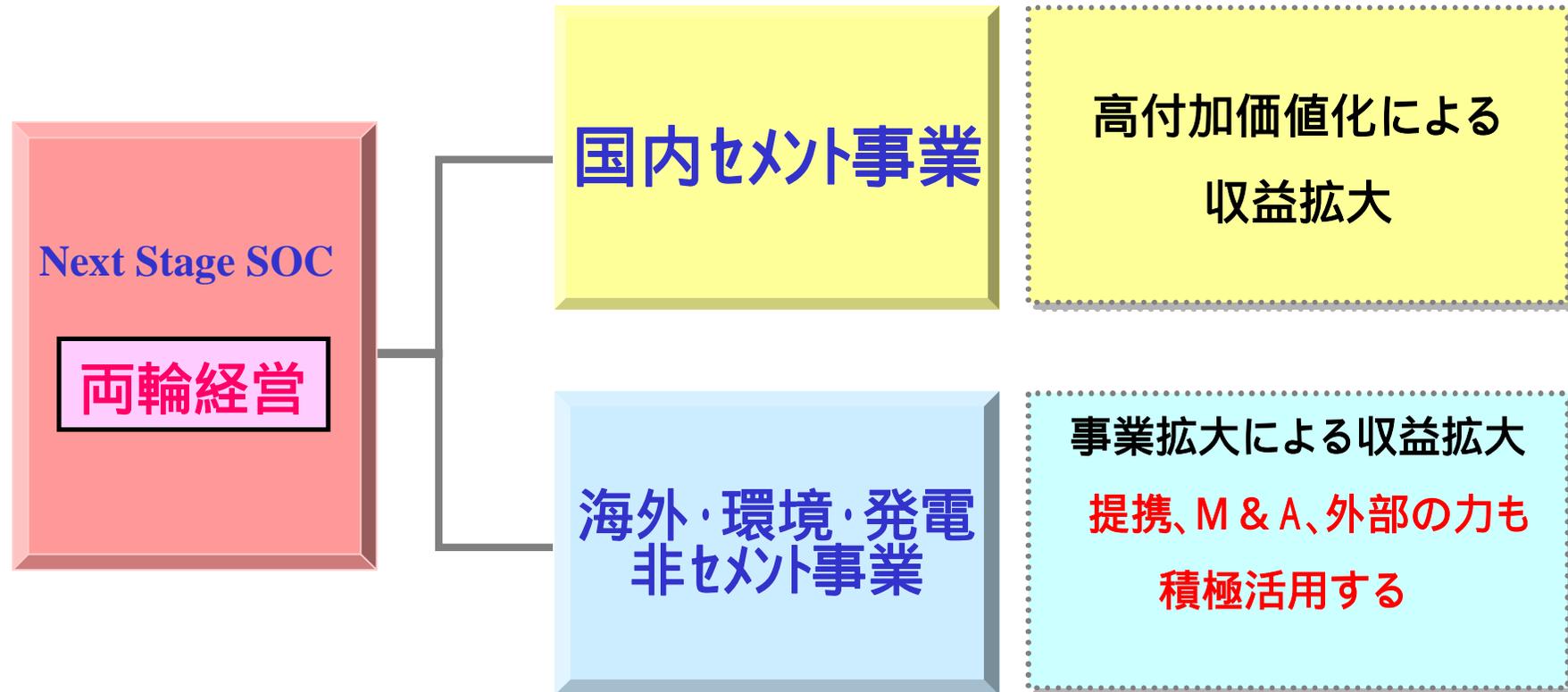


環境変化へ対応可能な成長戦略

中期経営計画

百周年を迎えた当社が、次を見据え、新たな事業基盤を構築し、持続的発展を目指す。

101 中期経営計画



2006~2008年度中期経営計画のレビュー -

2006~2008年度中期経営計画のレビュー -

単位：億円

		08年度		
		計画	見通	差異
売上高	セメント事業	1,485	1,760	275
	非セメント事業	545	430	115
	計	2,030	2,190	160
営業利益	セメント事業	160	52	108
	非セメント事業	50	8	42
	計	210	60	150
経常利益		190	50	140
当期純利益		100	19	81

営業利益・経常利益差異のうち、減価償却費計算方法変更による影響 48億円を含む

単位:億円

		08年度					
		売上高			営業利益		
		計画	見通	差異	計画	見通	差異
国内セメント		1,192	1,453	261	160	52	108
	海外・環境・発電等	293	307	14			
セメント事業		1,485	1,760	275	160	52	108
非セメント事業	鋳産品	98	96	2	14	3	11
	建材	135	128	7	7	2	5
	光電子・新材料	238	142	96	15	12	27
	不動産・その他	74	64	10	14	15	1
非セメント事業		545	430	115	50	8	42
合計		2,030	2,190	160	210	60	150

単位：億円 %

	08年度		
	計画	見通	差異
総資産	3,040	3,184	144
純資産	1,455	1,322	133
自己資本比率	47.9%	41.5%	6.4%
有利子負債残高	960	1,180	220
営業利益率	10.3%	2.7%	7.6%
総資産経常利益率(ROA)	6.4%	1.6%	4.8%
自己資本当期純利益率(ROE)	7.1%	1.4%	5.7%

設備投資 (3ヵ年計)	600	582	18
研究開発費 (3ヵ年計)	115	120	5
コスト合理化(3ヵ年計)	80	77	3

2006~2008年度中期経営計画のレビュー -

1. 総括

石炭・原油などエネルギーコストの高騰や、セメント内需の急減（対計画 250万トン）などのコスト悪化要因があったものの、一方で、セメントの価格決定システム見直しやコスト合理化推進など、次につながる経営基盤の強化も着実に実施した。

また、事業拡大については、環境や海外セメントなど一定の成果を上げたが、課題も多く残っており、次期中計で引き続き取り組んでいきたい。

2. 成果

国内セメント事業

- ・販売契約制度と価格決定システムの見直し
エネルギー価格転嫁、不採算是正等
- ・コスト合理化はほぼ計画を達成

海外セメント・環境・発電事業

- ・中国雲南省セメント事業への出資
- ・市川リサイクルセンター、栃木バイオマス発電の立ち上げ実施

非セメント事業

- ・売上規模の拡大
- ・生産体制の整備(生産拠点整備ほか)
- ・生産コスト削減

3. 課題

国内セメント事業

- ・販売契約制度の定着、適正価格の確保
- ・需要減少時における最適生産、最適物流体制の構築
- ・更なる合理化の推進(代替燃料比率のUP)

海外セメント・環境・発電事業

- ・雲南に次ぐ海外セメント事業の展開
- ・環境・発電事業の拡大と収益安定化

非セメント事業

- ・鋳産品事業 保有資源の有効活用
- ・建材事業 生産3拠点の有効活用
- ・光電子事業 非通信分野の強化
- ・新材料事業 高機能フィルム事業のコスト削減と販路確保

Next Stage SOC

101 中期経営計画の概要

Next Stage SOC



1 経営環境・数値目標

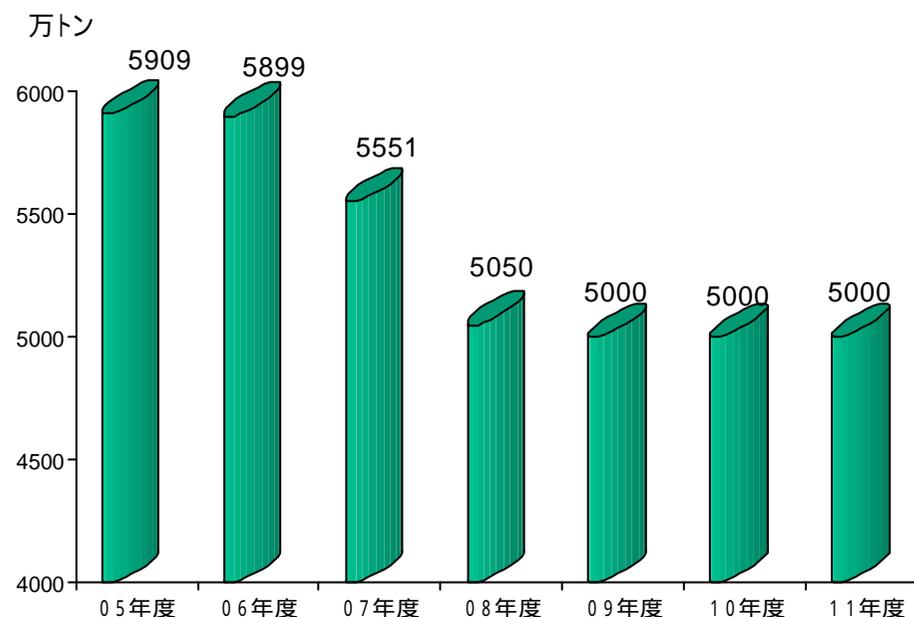
経営環境

国内セメント事業

- ・需要は中期的には低迷が続く
08見通しの5050万トンを上回らない程度の需要が続く
- ・エネルギー価格は中期的に高止まり

前提条件

国内需要 5000万トン
石炭 \$150/トン
原油 \$100/バレル
為替 100円/\$



経営環境

海外セメント・環境・発電事業

- ・厳しい経済情勢においても、中国は中期的に成長可能な市場
- ・環境事業も引き続き成長余地あり

非セメント事業

- ・厳しい経済情勢においても、保有資源及び当社の知見・技術の活用による事業拡大は可能

目 標

単位：億円

		08年度 見通	11年度 計画	増減
売上高	セメント事業	1,760	1,901	141
	非セメント事業	430	529	99
	計	2,190	2,430	240
営業利益	セメント事業	52	109	57
	非セメント事業	8	43	35
	計	60	152	92
経常利益		50	135	85
当期純利益		19	68	49
営業+投資キャッシュフロ -		39	138	177

目 標

単位: 億円

	売上高			営業利益		
	08年度 見通	11年度 計画	増減	08年度 見通	11年度 計画	増減
国内セメント	1,453	1,542	89			
海外・環境・発電等	307	359	52	52	109	57
セメント事業	1,760	1,901	141	52	109	57
鋳産品	96	106	10	3	13	10
建材	128	135	7	2	6	4
光電子・新材料	142	213	71	12	11	23
不動産・その他	64	75	11	15	13	2
非セメント事業	430	529	99	8	43	35
合 計	2,190	2,430	240	60	152	92

目 標

単位:億円 %

	08年度 見通	11年度 計画	増減
総資産	3,184	3,189	5
純資産	1,322	1,392	70
自己資本比率	41.5%	43.2%	1.7%
有利子負債残高	1,180	1,046	134
営業利益率	2.7%	6.3%	3.6%
総資産経常利益率(ROA)	1.6%	4.2%	2.6%
自己資本当期純利益率(ROE)	1.4%	5.0%	3.6%

Next Stage SOC



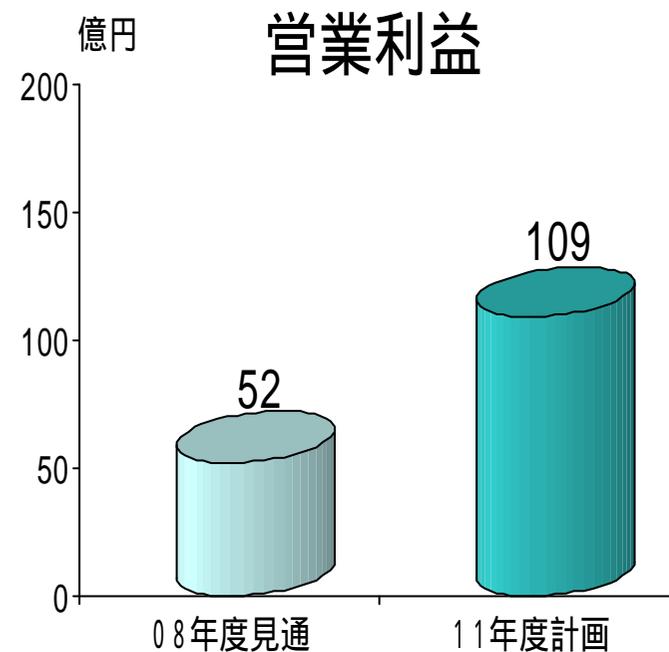
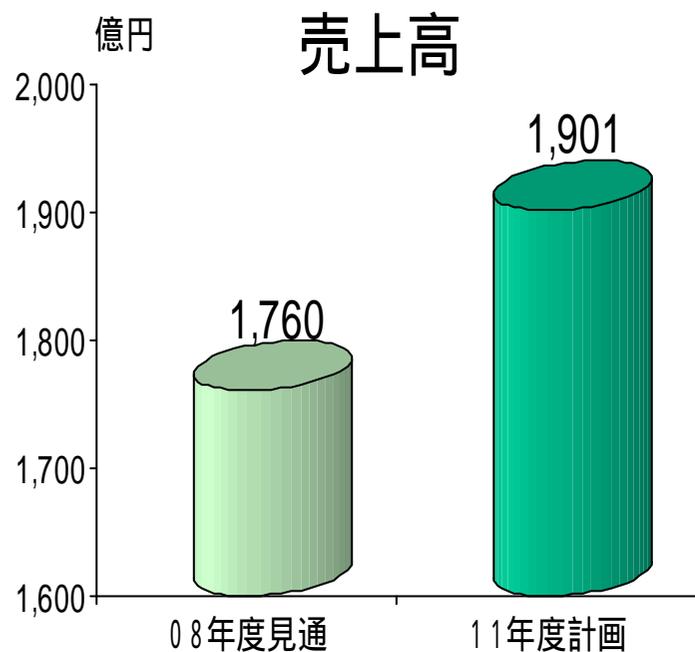
2 セメント事業部門

セメント事業部門

業績目標

単位:万トン

		08年度見通	11年度計画
当社販売量	国内	1,075	1,032
	輸出	105	130



< 営業利益増減内訳 >

単位:億円

	金額
合理化	+ 45
価格	+ 117
数量	10
コストアップ他	95
合計	+ 57

主な内訳 補修・償却 55、エネルギーコスト 25

< コスト合理化内訳 >

単位:億円

	金額
リサイクル原燃料処理費	+ 26
エネルギーコスト	+ 16
その他	+ 3
合計	+ 45

国内セメント事業

需要減少に対応した合理化実施

- ・生産体制(適正運転の実施)
- ・物流体制(SS統廃合、自社船効率化)
- ・リサイクル原燃料使用拡大、エネルギーコスト低減

販売契約制度の定着、適正価格の確保

- ・エネルギー - コスト、維持更新コスト等の価格転嫁
- ・地域やユーザー間の価格格差の是正

川下での営業基盤強化

- ・生コン販売力の強化(直系販売店の強化)
- ・大都市圏における生コン製造拠点の確保

海外・環境・発電事業等

海外セメント事業の拡大

- ・雲南に次ぐ、海外セメント事業の展開
(優良案件の発掘、投資の検討)
ex: 中国大手メーカーとの提携検討

環境・発電事業の拡大と収益安定

- ・リサイクル前処理事業(木屑破碎・建設廃土改質等)の展開
- ・新規環境ビジネスの検討
- ・バイオマス発電の安定稼働

Next Stage SOC



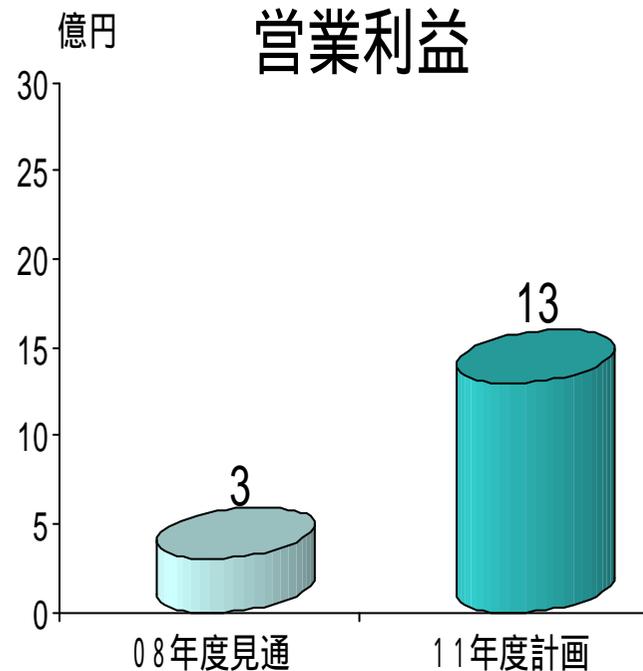
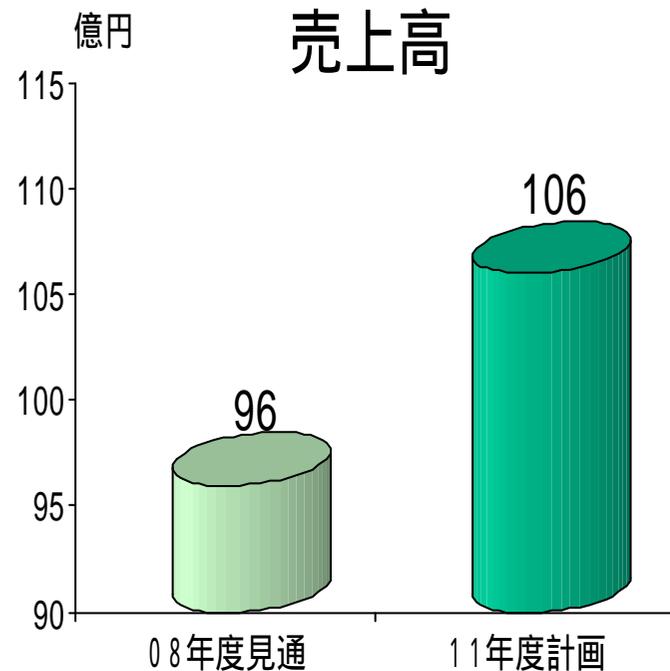
3 非セメント事業部門

鉦産品事業

方針

保有する高品質な石灰石資源の活用に向けた収益基盤の整備

業績目標



取り組み

資源開発・鉱量確保推進

- ・秋芳第三鉱画の立ち上げ(09年度上期出鉱)
- ・三菱マテリアル社との小倉共同事業開始
(11年度下期出鉱)

事業拡大への具体的取り組み(石灰石の外販拡大)

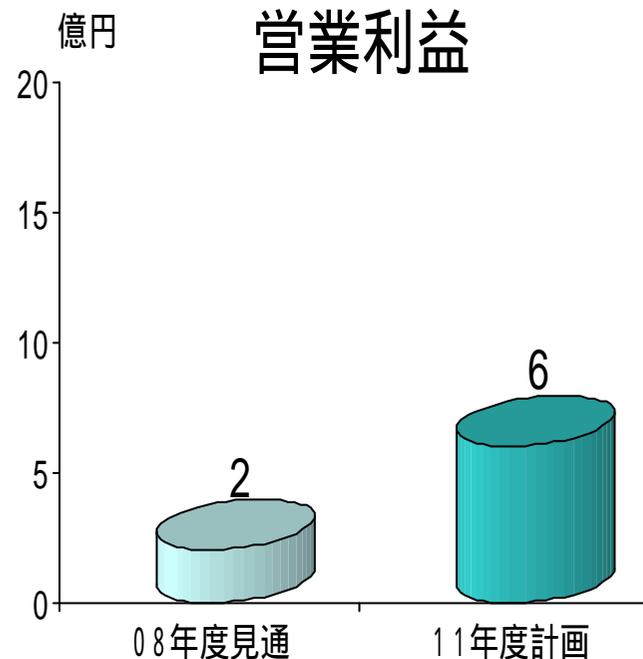
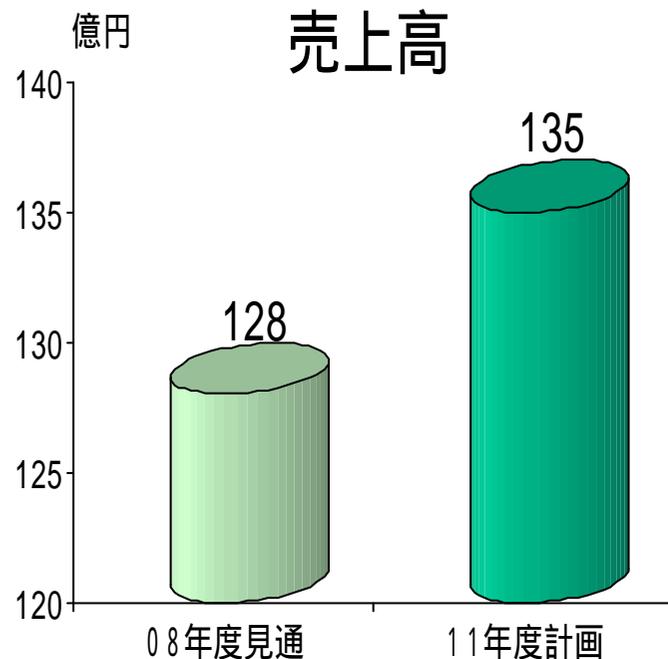
- ・鉄鋼、化学業界向け石灰石及び生コン業界向け石灰石骨材(量的拡大に向けた生産能力増強と貯鉱場整備)

建材事業

方針

建設需要は減少傾向であるが、補修・補強事業は今後も拡大が期待される。成長分野への選択と集中を進める。

業績目標



取り組み

コンクリート構造物の補修・補強事業の拡大

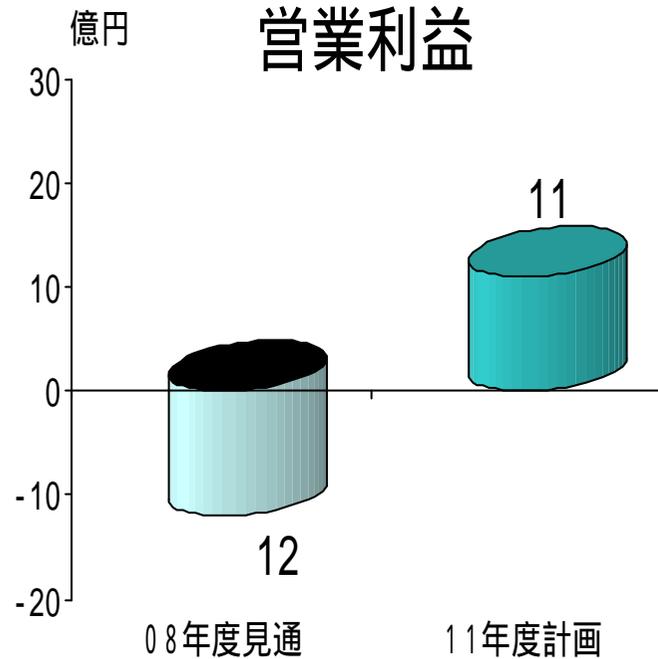
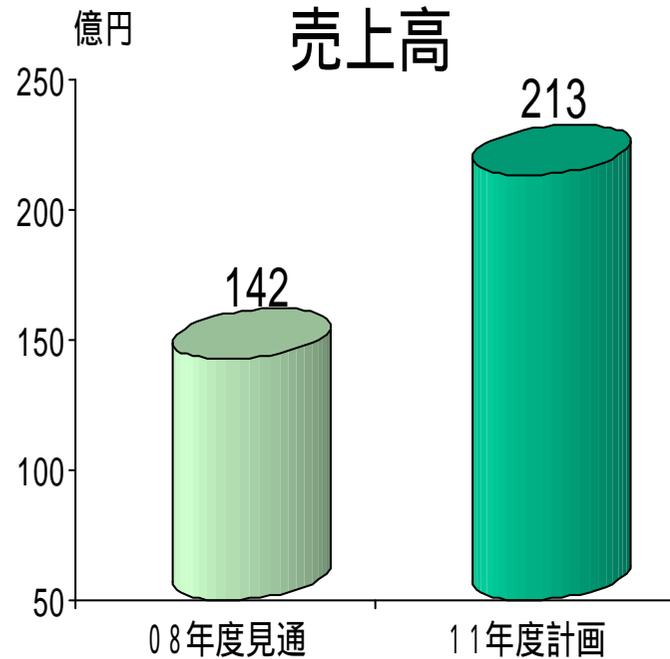
- ・補修材料と工事技術の融合
- ・上下水道、港湾設備、建築耐震分野における補修材料の
上市・新工法開発による差別化

最適生産・物流体制推進

- ・保有する生産3拠点(栃木、大阪、福岡)の活用

光電子・新材料事業

業績目標



光電子事業

方針

光通信分野は中期的に成長市場、
ニッチな分野でLN変調器等の既存事業の拡大、
及び新規事業の創出による事業基盤の確立

単位:億円

目標売上高

		08年度 見通	11年度 計画	増減
通 信 分 野	LN事業	33	42	9
	LN以外の事業	2	9	7
	小計	35	51	16
非通信分野		10	14	4
計		45	65	20

取り組み

1 通信分野

LN変調器事業

- ・40G変調器拡販
- ・新型変調器の開発
(超小型化、超低消費電力化、低コスト設計)

新規デバイス事業

- ・LNの技術及び営業機能の活用

2 非通信分野

- ・新型光計測器の開発・上市
- ・生物顕微鏡市場向け光源、光モジュール等の開発・上市

新材料事業

方針

外部提携を含めた生産体制の確立、及び徹底したコスト削減
による収益改善
二次電池材料などのエネルギー・環境分野へ進出

目標売上高

単位: 億円

	08年度 見通	11年度 計画	増減
高機能フィルム事業	56	75	19
ナノマテリアル事業	16	17	1
電子材料事業	24	36	12
二次電池材料事業	1	20	19
計	97	148	51

取り組み

1 高機能フィルム事業

- ・PDPフィルタ - への特化と収益改善(他社とのコラボ)
- ・高付加価値品へのシフト

2 ナノマテリアル事業

- ・既存製品拡販による収益向上(化粧品事業、ランプ事業など)
- ・新製品の上市スピードアップ(黒色遮蔽塗料、磁性材料など)

3 電子材料事業

- ・新型静電チャックの開発とコストダウン推進
- ・静電チャック以外の新商品の開発

4 二次電池材料事業

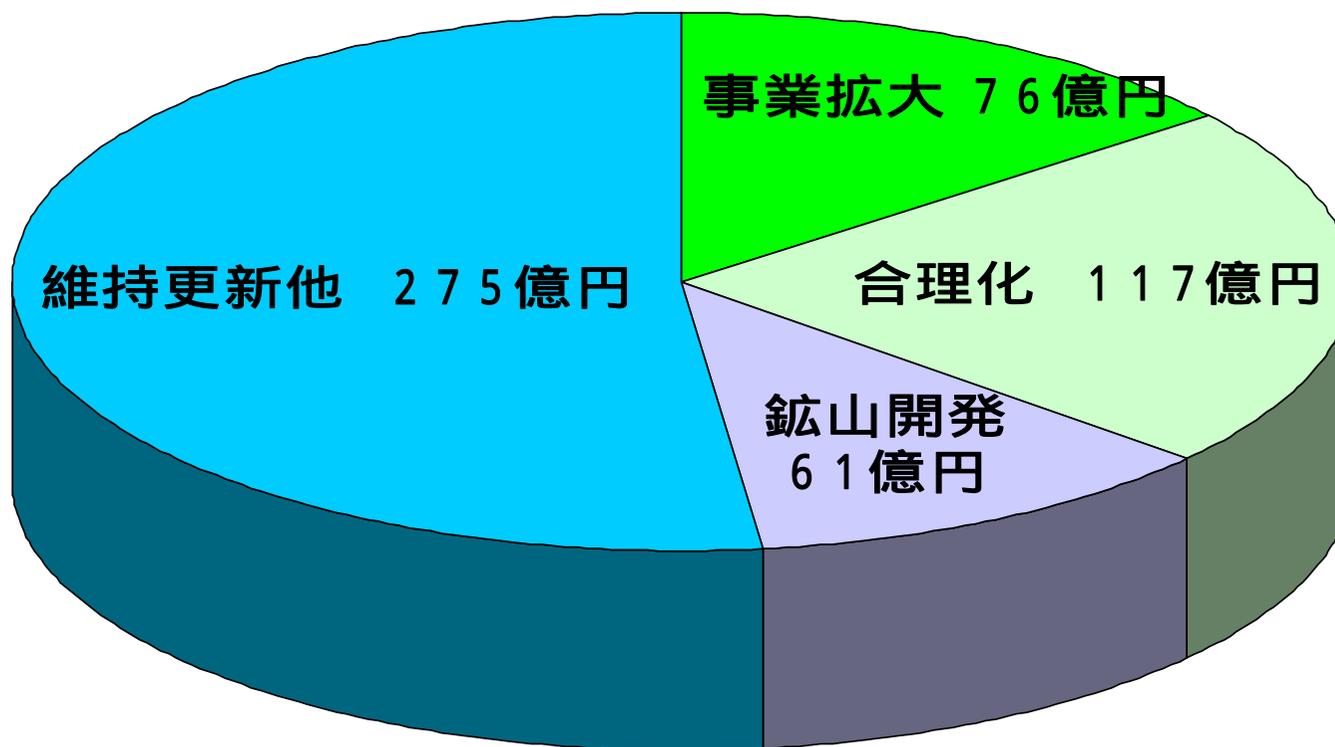
- ・将来を見据えた事業体制の構築
- ・供給、量産体制の早期構築

Next Stage SOC



4 設備投資

目的別設備投資額



単位: 億円

	06 - 08年度 見 通	09 - 11年度 計 画
設 備 投 資	582	529
減 価 償 却 費	517	675

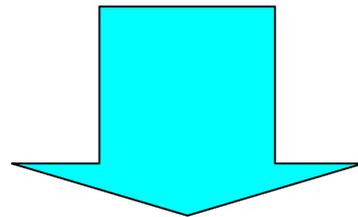
設備投資の考え方

品質確保と安定操業の為、維持更新投資を実施

更なるコスト削減の為に合理化投資を実施

事業拡大投資を選別し実施

セメント海外事業、M & Aは別枠で実施



事業環境に応じ、必要な投資を適宜実施

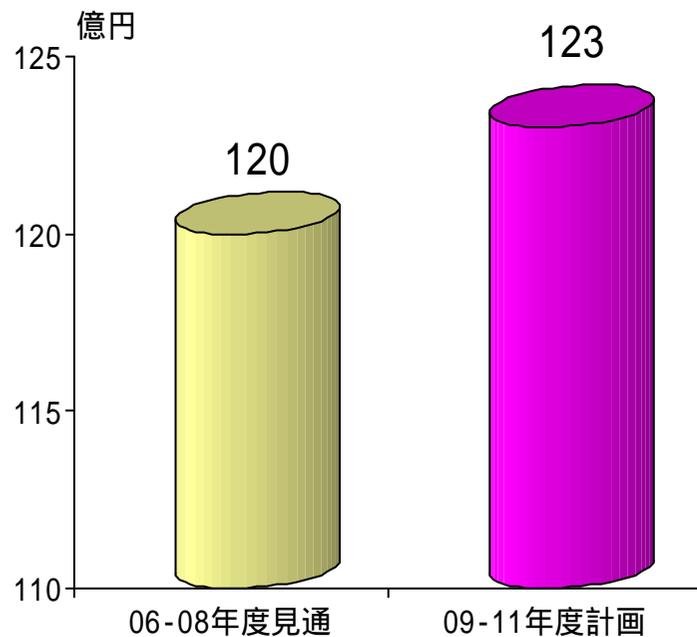
Next Stage SOC



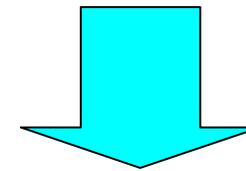
5 研究開発費

研究開発の考え方

研究開発費総額



事業拡大・新事業への
取り組み推進



将来の成長実現のため
研究開発費は維持する

Next Stage SOC



6 CSR・IRの取り組み

CSR・IRの考え方

1 CSRの推進

セメント産業の特色を生かしたCSR活動の推進

- ・CSR報告書等を通じ当社メッセージの発信
- ・地域社会への貢献

2 コンプライアンスの推進・リスク管理の強化

3 IRの強化、充実

投資家に対し公平、正確、迅速な情報開示を実施

Next Stage SOC



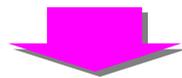
7 地球温暖化問題及び 環境保全への取り組み

地球温暖化問題及び環境保全への取り組み

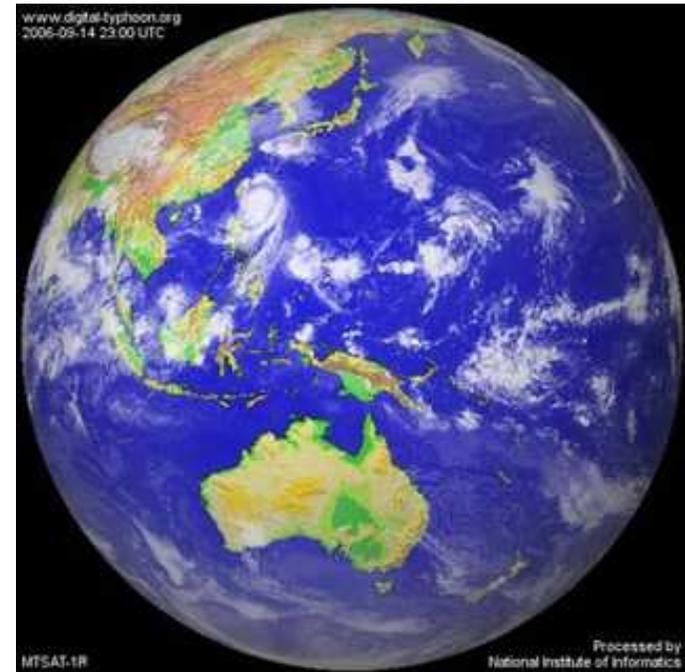
自主行動計画目標値の達成

温暖化ガス国内排出量取引試行
制度への参加(08～12、5年間)

循環型社会形成への貢献



循環型社会への貢献・省エネルギー - の計画的な推進





ご清聴ありがとうございました。

注意事項

本資料に掲載されている計画、見通等に関する内容につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確定要因を含んでいます。

実際の業績等は、今後の様々な条件・要因により、この計画とは異なる場合があります。本資料は、その実現を確約したり、保証したりするものではありません。